

雪の音

ゆき おと

Vol.134

平成30年10月15日発行



巻頭言	「県民の安全・安心な暮らし」の実現に向けて	新潟県土木部長 中田一男	1
特集	一般国道41号 富山高山連絡道路 「猪谷楡原道路」の工事進捗について	北陸地方整備局 富山河川国道事務所	2
随想	起承転結	中田千鶴子	6
寄稿文	能代川 地域づくりへの取組みと恵み	九十九曲がりの会 田邊敏夫	8
ちょっと気になる コーナー	日本から3時間半のリゾート「グアム」と LCC(格安航空)	(株)新潟トラベル 常務取締役 山崎康裕	12
お知らせ	平成30年度 石川地区社会貢献活動 ～白山国立公園・外来植物除去作業に参加～	石川事務所	14
お知らせ	平成30年度 ふるさと富山美化大作戦	富山事務所	16
お知らせ	平成30年度 おやこで見学会	広報部会	17
お知らせ	平成30年度 北陸支部防災演習等の結果	災害対策部会・総括部会	21
気分もリセット 体もリセット	温活・冷え対策	宮崎夏海	24
	北陸支部活動報告	事務局	25
	会員名簿 各部会・委員会委員名簿	事務局	30
	編集後記	熊倉孝次	

[題字]

元北陸地方建設局長
廣瀬利雄 揮毫

[表紙写真]

撮影地 土津(ハニツ)神社 福島県猪苗代町
撮影者 猪俣孝之

巻 頭 言

「県民の安全・安心な暮らし」の実現に向けて

新潟県 土木部長

中 田 一 男



本年4月に土木部長を拝命してから、あっという間の半年。この間、「大阪北部地震」、「西日本7月豪雨」、「台風21号の暴風」による被害、そして本原稿を執筆している間にも北海道で震度7の地震により甚大な被害が発生いたしました。亡くなられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被害に遭われた皆様に心からお見舞い申し上げます。被災からの早期の復旧・復興のため、土木部としても、できる限りの支援を行っていきたいと考えております。

こうした近年の頻発・激甚化する自然災害を目の当たりにして、改めて身の回りの自然環境の変化を感じるとともに、この変化に対応した防災・減災の取組が必要であることを実感しています。これまでの被災を契機とした取組に加え、県民の安全・安心な暮らしを確保し、経済損失を最小限にとどめるために一段加速した防災・減災対策が必要であると思っています。壊滅的な被害が想定される地域には積極的な投資による治水・土砂災害対策を推進するとともに、平常時・災害時においても物流が滞ることのない信頼性の高い道路網の早期整備が望まれます。

本年6月に花角新知事による新潟県政がスタートしました。知事は「住んでよし、訪れてよし!の新潟県を目指して」を公約に掲げております。その大前提として「安全で安心して暮らせる新潟」の実現と「活力ある新潟」づくりを目指すとしています。土木部としては、県民の安心・安全な暮らしと経済活動の礎となる社会資本の整備・維持管理をしっかり担うため、貴協会との連携を更に深めながら努力していきたいと考えております。

また、災害対応や社会資本整備を着実に進めていくためには、これらを担う建設産業が地域の基幹産業として活躍し続け、魅力ある産業となることが重要となります。しかしながら、他産業と比較して収益性が低く安定的な利益の確保と収益性の改善が必要となっています。また、建設就業者の高齢化に加え、処遇改善の遅れ等により若年就業者の割合が減少しており、建設産業に必要な技術・技能を維持するためにも、将来の「担い手」の確保・育成が必要です。本県では、このような現状を踏まえ「第三次・新潟県建設産業活性化プラン」（計画期間：平成28年度～平成32年度。以下「プラン」という。）を策定し、建設産業振興の施策を進めてまいりました。本年は、プランの中間年となるため、民間有識者等から本県の建設産業支援施策に対する評価をいただくとともに、後半期間に向けた施策展開のフォローアップ等についての意見を伺い、現在の重要課題である「担い手不足」や「働き方改革」への新たな施策展開も含め検討していきたいと考えております。

また、貴協会とも連携して行っている中学・高校生を対象とした出前講座「土木出張PR」についても、次世代を担う若者に向け、官民連携した社会資本整備への取組を更に発信し、建設産業の重要性や使命・役割などを伝えていきたいと考えております。

最後に、安全に安心して暮らせる新潟づくりの推進に向けて、今後とも貴協会の会員の皆様方の御支援と御協力をお願いするとともに、貴協会の益々の御発展を心から祈念いたします。

一般国道41号 富山高山連絡道路 「猪谷楡原道路」の工事進捗について

北陸地方整備局 富山河川国道事務所

1. はじめに

猪谷楡原道路は地域高規格道路「富山高山連絡道路」のうち、富山県富山市猪谷～同市楡原間の延長7.4kmの道路である（図1、図2参照）。これまでに現道を活用する区間を含め5.8kmが開通済みであり、残る富山市猪谷～片掛間の延長1.6kmについて事業を実施中である。今回、事業箇所における9月末現在の工事の進捗について報告する。



図1 猪谷楡原道路工事箇所図（拡大図は図2に示す）

一般国道41号は、愛知県名古屋市から富山市を結ぶ重要幹線道路として、北陸・中部圏の物流・交流等に大きな役割を果たしているが、猪谷楡原道路の区間には連続雨量120mmの雨量規制区間（写真1参照）があり、急カーブや急勾配の区間では、冬期に登坂不能やスリップ事故などにより交通障害（写真2参照）が発生するなど、道路網としての役割を十分発揮しているとはいえない状況にある。



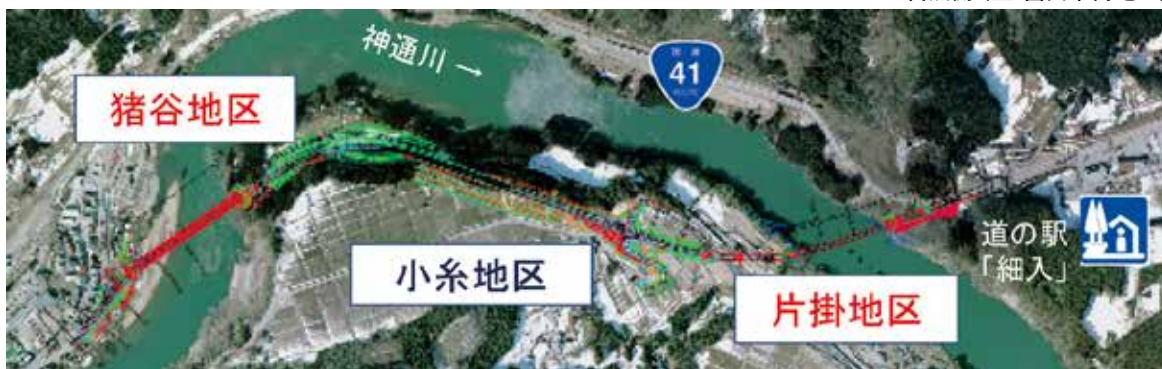
写真1 雨量による規制状況（猪谷地区）



写真2 冬期交通障害の発生状況（片掛地区）

そこで、災害に強いネットワークを形成し、交通機能の向上を図るとともに、経済活動の活性化、生活環境の改善の面からも猪谷楡原道路の早急な整備が求められているところである。

終点側（至 富山市街地→）



起点側（←至 岐阜方面）

図2 施工箇所拡大図

2. 猪谷地区の工事概要

起点側の猪谷地区では、神通川の兩岸を結ぶ、「猪谷橋（仮称）」（図3参照）の上部工の製作・架設工事及び神通川左岸地区の道路改良工（補強土壁等）を施工中である。

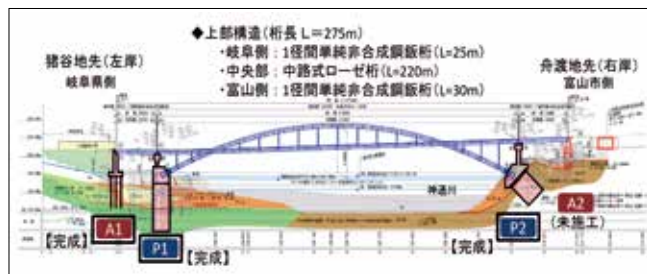


図3 猪谷橋（仮称）一般図

1) 猪谷橋の基礎工について

「猪谷橋」において特徴的なのは、図3のとおり、神通川の左岸側に比べ、右岸側は切り立った崖のような地形をしており、支持層が傾斜していることである。

この特殊な地形を活かすため、P2拱台の基礎はアーチリブの水平力を軸力で受けることの出来る「斜め深礎杭」（図4参照）とし、杭の掘削に際しては、NATM工法を用いた。

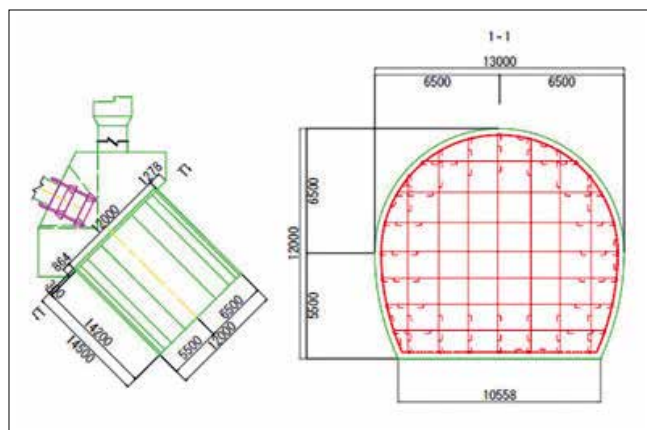


図4 斜め深礎杭の側面図・断面図

しかし、「斜め深礎杭」は全国的にも珍しい構造であり、前例がほとんどないことから、支保工建て込み、鉄筋組み立て、コンクリート打設時等の各施工段階において想定外の課題が多数生じ、その都度、設計照査や設計コンサルタントを含めた工事連携会議を開催し、早期の課題解決を図った。

その主な工夫を下記に示す。

(1) 支保工建て込み

当初設計では、上下半2分割とし、25tラフテレーンクレーンと高所作業車での建て込みを想定していたが、施工ヤードが設計時より狭くなっていたことから、上半支保

工を2分割し、2ブームのドリルジャンボを採用（写真3参照）することで対応した。



写真3 2ブームドリルジャンボによる支保架設

(2) 鉄筋組み立て

45度の斜杭のため、鋼製支保工に配力筋の転倒防止アングルや段取り鉄筋を事前に配置し、作業の効率や精度、安全性の向上を図った（写真4参照）。



写真4 斜め坑内での鉄筋組み立て

(3) コンクリート打設

当初設計では、4リフトでの打設を想定していたが、斜坑という形状上、締め固めが困難な箇所等があったため、8リフトでの打設に細分化し、頂部では、高流動コンクリートを使用し、課題解決にあたった（写真5参照）。



写真5 コンクリート打設（1リフト目）

2) 猪谷橋の上部工について

猪谷橋の上部工は、側径間を単純非合成鋼鈑桁、神通川渡河部となる中央径間は中路式ローゼ橋(220m)で構成されており、施工中の上部工事は、起点側の側径間(A1～P1)と中央径間(P1～P2)の製作・架設工事である。

上部工の架設は、側径間の鋼鈑桁を架設した後、ケーブルクレーンを組み立て(図5参照)、それを用いて鉄塔頂部より斜吊り索で桁を吊りながらアーチ部を架設(図6参照)して閉合後、斜吊り索を解体し、支材・補剛桁を架設する(図7参照)。

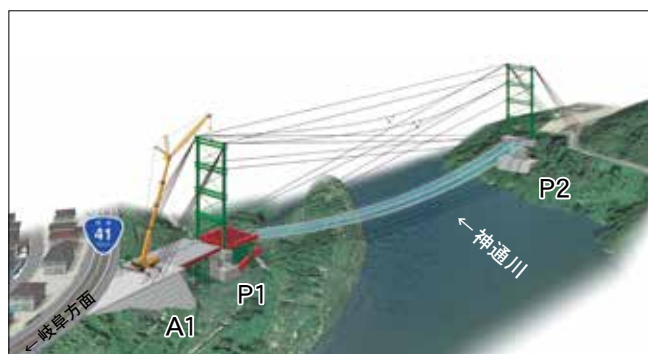


図5 架設ステップ図(ケーブルクレーン組立)

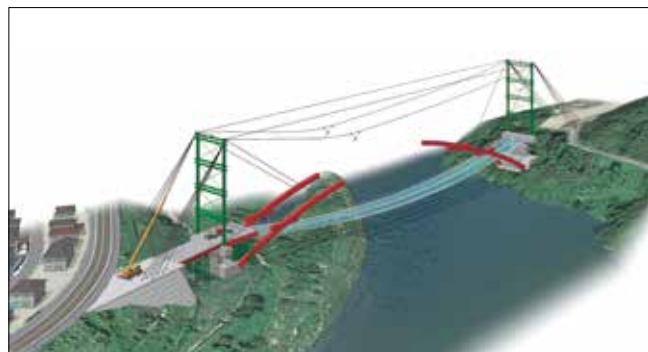


図6 架設ステップ図(ケーブルクレーンによる鋼桁架設)



図7 架設完了

これまでにP1拱台に重量約60tのアンカーフレームの据付が完了したところであり、コンクリートの2次打設に向け、詳細な据え付け調整を行っているところである。

今後、P2拱台のアンカーフレームを据え付け、A1～P1間の側径間の架設、ケーブルクレーン組立をし、中央径間の架設を行う予定である。

3. 片掛地区の工事概要

終点側の片掛地区では、神通川の右岸、左岸において、「片掛橋(仮称)」(図8参照)の橋梁下部工事(P2及びP3)が施工中である。

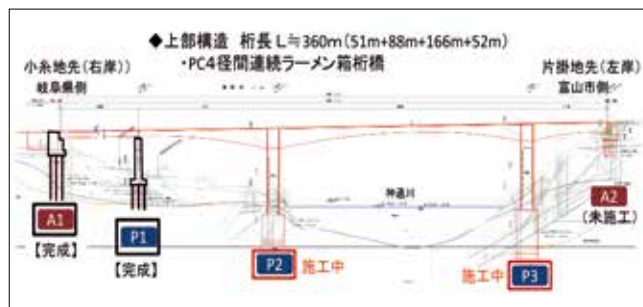


図8 片掛橋(仮称)の一般図及び完成イメージ

P2及びP3橋脚のケーソンは、「ニューマチックケーソン工法」を採用しており、工事用構台を設置(写真6参照)し、また、P3橋脚では「竹割り土留め工法」(写真7参照)により、施工基面までの掘削を行った後、刃口を据え付け、圧気しての沈下掘削作業を開始する流れとなる。



写真6 片掛橋P2橋脚の施工状況



写真7 片掛橋P3橋脚の施工状況

4. 小糸地区の工事概要

前述した猪谷地区と片掛地区の間の土工区間（小糸地区）については、9月末現在、切土及び法面工、片掛橋A1橋台背面部の補強土盛土などの施工を実施しているところである。

1) 小糸地区のICT活用工事について

小糸地区の道路土工については、ICT活用工事により切土（写真8参照）及び盛土工を実施しているところである。

「ICT」活用工事とは…ICT活用における施工プロセスの各段階において、ICTを全面的に活用する工事。

【施工プロセスの各段階】

- ① 3次元起工測量 ④ 3次元出来形管理等の施工管理
- ② 3次元設計データ作成 ⑤ 3次元データの納品
- ③ ICT建設機械による施工



写真8 ICT建機による切土状況

片掛橋のA1橋台背面では、補強土壁、補強盛土区間（盛土量約4,600㎢）のまき出し厚さ及び締固めの管理にICT技術を活用している。

締固めについては、あらかじめ利用する盛土材の試験盛土を実施し、その結果に基づき締固め回数を決定する。振動ローラ（写真9参照）のオペレーターは、転圧回数毎に色分けされたモニター（写真10参照）に写し出されるヒートマップを確認しながら転圧の必要回数の把握を行なっている。



写真9 ICT建機による「締め固め」の状況



写真10 ICT建機による締固め状況

これらのICT技術を活用することで、測量や丁張設置作業の省力化及びそれに伴う安全性の向上、施工管理のし易さ等、生産性の向上に対する効果が現れており、今後ともICT技術の活用に努めていきたい。

5. 今後の施工について

猪谷楡原道路は、神通川によって形成された溪谷、「県定公園 神通峡」に位置しており、新緑や紅葉シーズンには多くの観光客も訪れる県内有数の景勝地である。

その神通峡に沿うように走る国道41号は古くから富山地域と高山・飛騨地域を結び、「越中ブリ」が大量に運ばれていたことから、「ブリ街道」とも呼ばれていた。また、日本風景街道（シーニック・バイウェイ・ジャパン）の活動では、この国道41号の富山から高山の区間を「ぶり・ノーベル出世街道」と名付け、沿道の様々な地域活動・みどころ等の情報発信を行っているところである。

しかしながら、前述のとおり、本事業区間においては、雨量規制や冬期の交通障害箇所を抱える区間であり、それらの早期解消のため、急峻な地形と冬期の気象条件等、厳しい条件下ではあるが、引き続き事業効果の早期発現に向け、ICT等の新技術も積極的に導入し、生産性の向上に取り組み、事業を推進する。



参考 平成29年1月の降雪状況

随想 起承転結

中田千鶴子



人生のメソッド（方式・方法）

フリーランサーの道を歩みつづけて半世紀、あっという間に過ぎ去った。選んだわけでもない、選ばざるを得なかった自主自立の道。自分自身、信じがたい年代を迎えた今、過ぎた歳月を振りかえると、根を下ろして生きて行く場所があることのありがたさに気づかされる。

もう30数年前にならうか。“続けることが才能”“あなたは年をとっても出来る良い仕事を選んで良かったね”—今は亡き友人からのありがたい言葉がよぎる。

東京、富山を拠点に、「話す」仕事で新潟はじめ、東北、北陸を月のうち5日間は駆け回っていた。昭和48年秋、出張先の山形県で予期せぬことに出会った。

古い布地を引き裂いて、一本一本こよりのようにしながら細い糸に仕上げ、織り機を使って一枚の布地に仕上げる“ぜんまい織”、その仕事場へおじゃまさせて頂いた。場所は米沢市門前町の『出羽の織座』。仕事でお世話になった担当者の方から、和紙や古布で機織りをされている山村栄子さんを紹介して頂く。

手まわしの小さな織り機が数台と小さな座布団が目に入る。広さは記憶にないが、明治、大正を偲ばせるひなびた雰囲気。映画やテレビドラマのセットを思わせる世界と重なる。

寒中に手漉きした紅花で染めた淡いうす紅色の和紙や、紅花を浮かべた和紙など、はじめて手に触れる素朴な味わいに魅せられる。ご主人は紅花染めや、和紙を細かく砕いて糸のように仕上げ、それを繊維にする研究をされているとお聞きする。

米沢での紅花染めの和紙との出会いにより、私の人生に新たな世界が加わる。趣味で油絵を楽しんでいた私、絵の素材が絵の具から和紙に変わる。富山の八尾、五箇山、朝日町や岐阜県的美濃和紙など、全国各地の手漉き

和紙を取り寄せ、染色からはじめる。偶然なのか、必然なのか—時間が足りない生活に人生の不思議を感じる。

生活がかかっている私は、フリーアナウンサーとして依頼される仕事は情熱と責任を持って引き受けながら、まさに二刀流の生活がスタート。

上野から米沢まで当時は4時間だったのだろうか。帯のような幅35センチ、長さ11メートル、ずしりと重い“ぜんまい織”。その色彩の豊かさと斬新さに魅せられる。フリー駆け出しの私は、フトコロが寂しくなるのを承知の上で世界に一点しかない作品をかかえて作業場をあとにした。遠い日の一コマである。

後日、何気なく訪ねた銀座7丁目のデパートの売り場。ぜんまい織のお札入れに足が止まる。お値段も素敵だった。あの日求めた貴重なぜんまい織は、45年過ぎた今、クローゼットの上段に眠っている。いずれ和紙花絵の個展を開いた折りには、会場のレイアウトとして飾りたいと思っている。

なじむこと

人生のやり直しはもう効かない年を迎えた今こそ、しっかり見つめ直したい。

書くことは、私にとって大切な心のメンテナンスになっている。考えることは書くこと。書くことで、自分自身の考えや通り過ぎた時代を再び見つめ直し、今を生きる答えも見えてくるように思える。

かつてコミュニティラジオでの好きな音楽番組と取り組んでいた時のカセットテープやMD、そしてたくさんのお原稿（スクリプト）など、生きてきた証のように思えて処分出来ないまま抽斗にしまい込んである。40年前のものは処分したものの、日常生活の合間に記す生活ノートも増え続ける。

「広い部屋を狭くしてるわね」訪ねてきた友人の率直な言。その通りである。「パソコンに収めてしまえばすっきりするのに」パソコンと言われましても、私の場合はワープロ。それも15年前に処分してしまった。パソコンも試してみたが、私の生活スタイルには必要としない。

かつて勤めた放送局時代、テクノロジーの効率に助けられ、楽しみながら使いこなしたファイリングマシンが懐かしい。IT（情報技術）を含め、テクノロジーが凄まじいスピードで進む時代。AI（人工知能）が話題になる世界を横目に、今を生きる自分自身を見つめ直して見る。便利さという恩恵はありがたいが、素朴な手作りの世界は時間もかかり、決して効率的ではないけれど、この先も大切に育んでいきたいと思っている。取り残されていくというサビシサは感じていない。

電車に乗ればスマートフォンに夢中な若者。道を歩きながらもスマートフォン…何をか言わんや。ノーサイドで眺めようとしている自分がいる。

戦前戦中戦後の日本の貧しさを知っている私。しかし、心は豊かに暮らしていた。昭和という時代は私にとって切り離せない。重く、尊く、忘れがたい。21世紀を迎えて18年。ときおり昭和の時代を振り返る時、なぜか昭和93年を基準に考える習慣がある。新しい元号を迎えても変わらないのだろうか？

トライアル人生

歩き続けて60年の仕事人間。意欲は枯渇してはいないと思うものの、無理は出来ない年代でもあることも自覚している。健康と経済のバランスが保ててこそ、はじめて生かされることも身に沁みてわかっている。

私のエンジンはこの先、どんなことに注いでいったら

いいのか、自分なりに想いを巡らす。しかし未来は見えてこない。明治、大正、昭和、平成を生き抜いた両親に倣って、自分のこれからを占う。そんなことを考えながら、必要なものを取り出すために机の抽斗を開けると、処分したはずの古いノートに目が止まった。上京して最初に通ったシナリオ学校時代のものだ。すっかり忘れてしまっていた。

「作業の順序」「形式と内容」「文学的教養」「演劇的表現」「文章的表现」etc…。私にもこんな人生道中があったのだ。

ドラマは「転」に向かって書く。「承」がうまく書かれていれば「転」の機能が出てくる。起承転結を考えた上で構成表を作る。いわゆる筋書き。ファーストシーン、クライマックスシーン、ラストシーン…30代後半の私は一体何を考え、何を求めているのか。自問自答の結果、基礎コースの半年間でピリオドを打った。人生、シナリオ通りには進まないことを痛感させられ、断念した。

そろそろ身辺整理をして、新しい気分で新しい元号を迎えたい。『これはオマケですよ！』見えない世界からのプレゼントを頂ける人生であれば一などとはヨクバリだろう。それにつけても毎日が飛ぶように過ぎていく。

平成30年の富山の冬は大雪、夏は記録づくしの猛暑。全国的にはゲリラ豪雨による水害、そして台風による災害。さらに北海道地震など忘れられない年となっている。それだけに新しい元号となる年が、平和で幸せに満ちた年になることを祈りたい。

プロフィール 中田千鶴子

草創期の民放ラジオ、テレビのアナウンサーを経て独立。東京・富山で活動。

昭和48（1973）年より独自の和紙染色と花絵の創作をはじめ。

昭和52（1977）年～平成25（2013）年まで、音読教室と和紙花絵教室を続ける。

平成6（1994）年開講の北日本新聞カルチャー教室講師。

能代川 地域づくりへの取組みと恵み

九十九曲がりの会 田邊敏夫

1. はじめに

私はこれまで、新潟県内の河川やダムの計画、改修、管理の各段階で携わるとともに、こうした河川の災害復旧にも係わってきました。

今回はこうした河川の中でも長年係わり、思い出深い能代川における地域づくりへの取組みとその恵みについて紹介したいと思います。

2. 能代川の概要

能代川はその源を五泉市村松地区の宝蔵山（標高897m）に発し、五泉市、新津市街地を貫流し、小阿賀野川に合流する流域面積141.4km²、流路延長33.4kmの信濃川水系の一級河川です。かつての能代川は俗に「九十九曲（くじゅうくまがり）川」といわれるほど屈曲が多く、出水時にたびたび氾濫し、流域住民に大きな被害を与えてきました。九十九曲川の呼び名は、今でも能代川の特徴を端的に表す通称名として使用されています（図1、2参照）。

こうした被害を少なくするため、昭和22年以降、新潟県により蛇行をなくし川を真っ直ぐにするとともに、川幅を広げたりする河川改修工事や災害復旧関連事業が実施されてきました。



図1 能代川位置図（市町村名は合併前）（出典：新潟県）



図2 能代川における蛇行の様子（出典：新潟県）

3. 能代川の災害復旧と「九十九曲がりの会」

平成12年7月の集中豪雨により能代川やその支川が溢水し、当時の五泉市、村松町を中心に大きな被害が発生したことを受け、災害復旧助成事業や河川災害復旧等関連緊急事業により河川改修が実施されました。

この河川改修により、能代川は五泉市内で単断面から複断面となり、河川幅が3倍にも広がりました。

こうして新たな川に生まれ変わる能代川を軸に地域活性化を図るため、新潟県は平成14年に「能代川の堤防活用」をテーマとしたワークショップを開催しました。地域住民約30名が参加して、既に事業化が決定していた能代川サイクリングロードを使った地域間の相互交流などについて提案・提言等を行いました。

翌15年8月にワークショップ参加者が中心となり、市民団体「九十九曲がりの会」が結成されました。

主な活動としては、交流の拠点となる能代川親水公園（ビオトープ広場と畑）づくりと管理を実施するとともに、サイクリングロードの愛称「能代川りんりんロード」の命名やシンボルマークの選定、能代川でのイベントの開催と広報など、サイクリングロードの利活用の促進やPRに努めてきました。

主なイベントとして自然観察会、能代川ウォーキング・サイクリング大会、歴史講演会などを開催するとともに、能代川りんりんロードを利用した少年駅伝大会、鮭のつかみ取り大会などのイベントを後援し、お手伝いをしてきました。



写真1 能代川親水公園（九十九曲がりの会）

4. ふるさとの川“能代川”の創造

新津土木事務所（現新津地域整備部）ではこうした活動をさらに進めるため、能代川の基本方針を「ふるさとの川 “能代川”の創造」とし、3つの課題に取り組むことになりました。その一つ、「賑やかな水辺空間づくり」として、市町職員、地域住民によるワークショップが開催され、能代川利活用計画を作成、その一部が地域の市民団体と連携して取り組まれました。

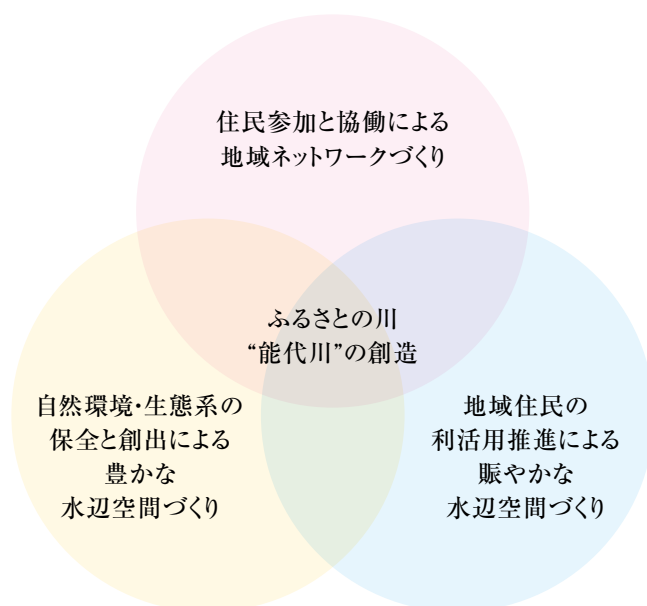


図3 能代川取組みの基本方針（新潟県）

能代川利活用計画の一環として、新津市街地に隣接して「しんかな菜園」が整備されました。運営は市民有志で結成された「川を活かす会」が担い、年2回菜園利用者も参加して堤防の草刈りが行われています。



写真2 しんかな菜園（川を活かす会）

また、「新津さくらの会」が結成され、会員の寄付により能代川堤防に桜を植樹しました。毎年、会員の手によって草刈りや施肥が行われ、現在では花見もできるまでに桜も成長しています。



写真3 能代川の桜と花見（新津さくらの会）

5. 能代川の鮭と豊かな水辺空間づくりへの取組み

能代川ではこうした地域づくりの取組みが始まる以前から、「能代川サケ・マス増殖組合」が能代川流域の自然環境を守りたいとして、鮭の増殖に取り組んでいました。

新潟県内で「鮭」と言えば「三面川」で、毎年5万匹程度の鮭が捕獲されています。新潟県では三面川以外でも多くの河川に鮭が遡上します。図4のように、阿賀野川や信濃川でも鮭が遡上し、捕獲数は次第に増加しそれぞれ支川も含めて3～4万匹となっています。

昔、信濃川では長野県まで鮭が遡上していました。その後はダムが造られ遡上しなくなりましたが、近年ではダムの魚道が改良されるなどして、平成22年には65年ぶりに長野県まで鮭が遡上したことがニュースとなりました。なお、信濃川本川だけでなく、加茂川、五十嵐川、魚野川などの支川にも鮭が遡上し、近年は能代川でも捕獲数が増加しています。

能代川では「能代川サケ・マス増殖組合」が30年近く前から、能代川流域の環境保全として鮭の増殖に取り組んでいます。その成果が現れ始めたのは15年くらい前からで、平成14年に統計上初めて能代川での鮭の捕獲数が計上され、その時は437匹でした。

新津土木事務所は課題の一つである「豊かな水辺空間づくり」に向けて、能代川サケ・マス増殖組合、能代川の魚を考える会と連携し「魚の住みやすい環境をどのように作り、再生させるか」について研究し、サケ広場の整備にも手作りで取り組みました。

こうした取組みもあり、能代川での鮭遡上数は次第に増加し、平成27年には8,902匹が捕獲されました。毎年約100万尾の鮭稚魚を放流しているので、回帰率は約0.9%です。三面川では毎年800万尾の鮭稚魚を放流し、回帰率は約0.6%です。この数値は捕獲数だけを見ているので、実際の回帰率は不明ですが、能代川も健闘していることは確かです。

能代川の恵みであり、流域環境のバロメータでもある鮭の遡上する姿を見ることがのできるポイント2箇所を紹介します。

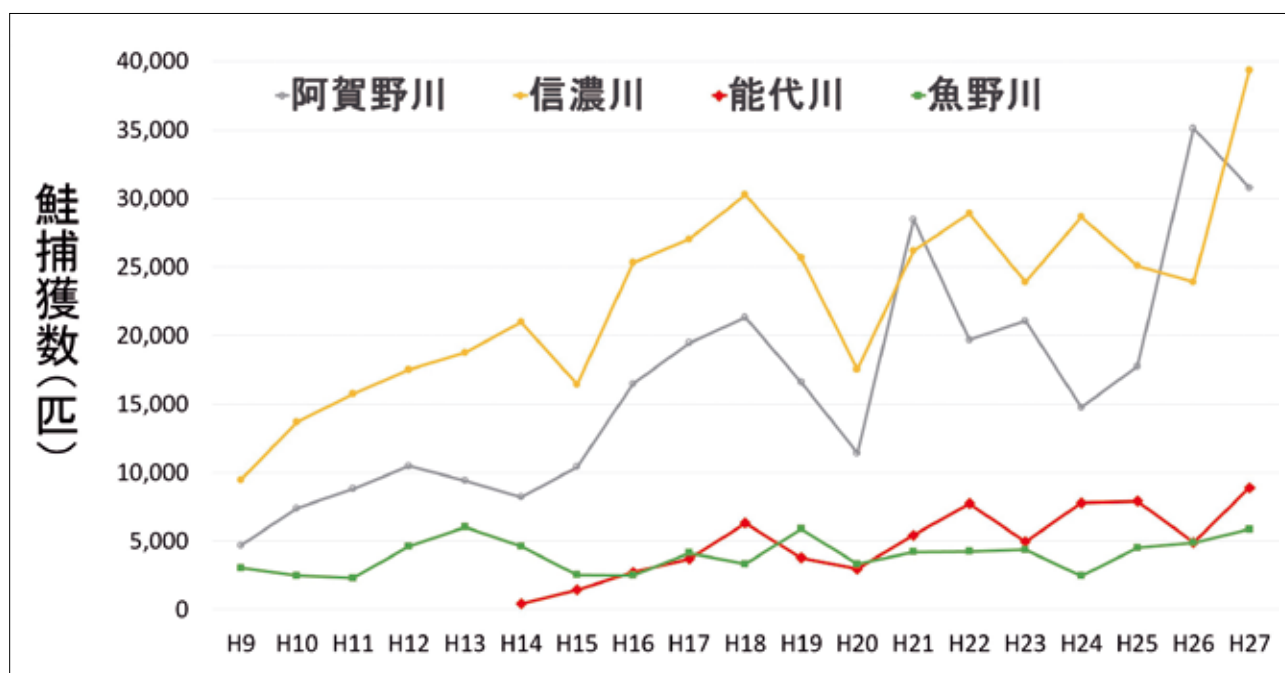


図4 新潟県内 主な河川での鮭捕獲数の推移

○能代川水辺公園「^{たのしほ}楽新保広場」 (五泉市新保地内)

このサケ広場は新保橋の直上流にあり、地域の人々の協力も得て平成17年秋に完成しました。遡上してきた鮭を捕獲するために、能代川低水路には「ウライ」と呼ばれる柵が秋に設けられます。これにより上流に行けなくなった鮭は、高水敷に作られた水路を遡上し、水路上流端に設置された捕獲用柵に誘導され、そこで一括捕獲されます。

11月から12月初めに掛けて、この水路を遡上する鮭を見ることができます。なお、雨が少なく水量が少ないなどタイミングが悪いと鮭の姿を見ることができないこともありますので、注意してください。

このサケ広場では毎年11月中旬の日曜日(本年は11日予定)に「能代川鮭祭り」が開催されています。子供を対象とした「鮭のつかみ取り大会」が行われ、鮭汁なども振る舞われます。また、ここで獲れた鮭から採卵されたイクラの醤油漬けも販売されます。このイクラを私は毎年買っていますが、安く味も食感も絶品なのでお勧めです。



写真4 楽新保広場とウライ・水路・捕獲用柵



写真5 能代川鮭祭り(鮭のつかみ取り)

○サケのふるさと南田中パーク (五泉市南田中地内)

この公園は五泉市立大蒲原小学校近くの国道290号沿いにあり、鮭が能代川を遡上し自然産卵する光景を堤防上から眺めることができます。駐車場があり、見学しやすいよう堤防も舗装されています。

下流の楽新保広場のウライで鮭は上流に上れないようになっていますが、雨が降り、川が増水すると鮭はウライを乗り越えて上流に行き、自然産卵します。この場所は能代川最大の自然産卵ポイントとなっているので必見です。11月には鮭が群れをなして産卵行動をしている姿を間近に見ることができます。



写真6 遡上した鮭の様子(南田中パーク)(出典:新潟県)

6. 終わりに

能代川では平成12年7月の豪雨災害を契機とした災害復旧事業を契機に、地域づくりへの取り組みが始まり、多くの団体が結成され活動を続けています。しかし、活動を始めてから15年が経ち、大きな問題に直面しています。それは各団体構成員の固定化による高齢化と次世代の担い手不足です。

九十九曲がりの会でも同様であり、平成29年に一旦中締めを行い、次の活動を模索しています。

こうしたことは人口減少が進む地域共通の問題でもあり、活動を継続させるため地域の人たちをどうやって引き込み、活性化を図っていくかが課題です。

一般社団法人建設コンサルタンツ協会北陸支部会員に皆様におかれましても、まずは各地で行われている地域づくりのイベントに積極的に参加していただき、興味を持っていただけたら活動そのものにも参加していただきたいと思います。

能代川でも皆様の参加をお待ちしています。

日本から3時間半のリゾート 「グアム」とLCC(格安航空)

(株)新潟トラベル 常務取締役 山崎康裕



恋人岬から見たタモン湾

グアムへの交通の 利便性「安くて近い」

日本からグアムへの直行便が就航している空港は「成田・名古屋・関西・福岡・新千歳・仙台」の6空港があります。全国の空港から直行便の就航している空港経由でグアムへ行っても良いですし、大韓航空を利用して仁川空港経由でも行けます。

直行便利用であれば日本から3時間30分ほどです。しかし、就航している航空会社の料金は(他の地域のリゾートと比べれば安いのですが)結構な費用となります。やはり安く行きたいものです。

一番近いアメリカ! 「グアム」

今回は、日本から一番近いアメリカ「グアム」をご紹介します。行かれた事がある方もいらっしゃるかと思います。

最近の旅行の傾向は、観光地を急いで回るのではなく、同じ場所に宿泊してゆっくりと休暇を過ごす方が増えています。ゆったり過ごす中で興味のある事に挑戦したり、日本ではできない事を体験したりする傾向があります。

最近では日本でも、欧米の様に休暇を長く取る方もいらっしゃいますが、まだまだ一部にすぎません。世界各地に様々なリゾート地がありますが、現地までの移動で時間を使ってしまい、現地滞在時間が短いとゆっくり過ごすことも難しくなってきますし、旅行費用も高額になってしまいます。

そこで「安・近・短(安くて、近くて、短い)」で楽しめるグアムをお勧めします。

アガニア大聖堂



記載会社名変更

お世話になっております。この度、(株)新潟トラベルの常務取締役を兼務する事となりました。既存の中越トラベル(朝日交通(株))と中越交通(株)と同じ企業グループの為、会社が変わった訳ではありません。今後とも宜しくお願い致します。常駐は、(株)新潟トラベルの本社(新潟市中央区笹口)となります。

〈会社紹介〉

(株)新潟トラベル 観光庁長官登録旅行業第207号
新潟市中央区笹口2-12-3
TEL 025-243-6543 FAX 025-243-4579
山崎康裕(常務取締役 営業本部長)
mobile 090-7823-3483
メール yamazaki@nts-kij.co.jp

旅行のお問い合わせ
がありましたらお気軽に
ご連絡下さい。
お待ちしております。

ティーウェイ航空

皆様は、グアムにLCC（格安航空）が就航している事をご存知でしょうか。

韓国の航空会社のティーウェイ航空（t'way）とチェジュ航空の2社が就航しております。ティーウェイ航空は2004年に設立し、2011年からティーウェイ航空と名前が変更された韓国最初のLCCです。

日本と韓国の路線がメインで、「成田・関西・新千歳・大分・佐賀・那覇」が就航しています。2015年からは関西－グアムの路線を就航させております。また、顧客満足度調査でもトップを獲得しております。

荷物の重さ制限や機内サービスが一部有料など、LCCは様々な注意点もありますが、往復で20,000円台からと、安価な航空券が手に入ります。



大聖堂のヤシ

宿泊場所の予約

一流のホテルなどに泊まるとやはり費用がかさみます。安価な航空券が手に入ったなら宿泊先も探しましょう。

一例ですが「ガーデンヴィラホテル（タモンビーチ、タモンサンズプラザ、サンドキャッスルまで15分程度）」で1泊5,000円程です。つまり、2名で3泊4日間のグアム旅行に行く場合、1名様当たり30,000円程度で行けることになります。（TAX、燃料サーチャージ別途のため、実際には難しいかもしれませんが…）

インターネットなどで検索してみてください。旅行をご自分で作り楽しみもあります。ぜひお試しを…。



リゾートホテルのプール



野生のイルカ

平成30年度 石川地区社会貢献活動 ～白山国立公園・外来植物除去作業に参加～

〈石川事務所〉

1. はじめに

当協会CSR活動の一環として、平成18年度（県単独では平成16年度）より続く、石川県白山自然保護センター・NPO法人環白山保護利用管理協会主催の「白山国立公園外来植物除去作業in市ノ瀬」に今年も参加しました。

開催当日は、晴天に恵まれ気温も26℃となりすがすがしい陽気の中での作業となりました。参加者は北陸支部会員の社員及び家族60名を含む、総勢138名が参加し、午後13時半から2時間に渡り作業に汗を流しました。



市ノ瀬の除去作業風景

2. 白山国立公園の概要

白山国立公園は、富山県・石川県・福井県・岐阜県の4県と、白山市・南砺市・勝山市・大野市・郡上市・高山市・白川村の6市1村にまたがる標高2,702mの山岳自然公園で、富士山、立山と共に日本三名山（日本三霊山）の1つとされています。

また、白山は積雪量が多く、高山植物の宝庫として知られる山頂部、広大なブナの原生林の広がりとそのに生息する多くの野生動物、深い谷間から山ろくにかけて数多く噴出する温泉群など、類い希な環境を呈し、また、古くから信仰の山として親しまれております。

さらに昭和55年（1980年）には、生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）を目指す取り組み「ユネスコエコパーク」に指定されるなど、白山は国際的にも高い評価を受けています。

3. 白山における外来種の問題

近年、登山客の増加に伴い、外国原産の植物や低地性の植物等、日本原産であっても本来白山国立公園に生息していない植物（以下外来植物）の分布が人の活動によって拡大しているという問題が発生しています。

これを放置すると、元々生えている高山性の植物の生育を阻害してしまうだけでなく、近縁な高山植物と交雑し雑種ができてしまうという危険性があります。実際の研究でDNA解析などにより、外来植物のオオバコと在来種のコナハシバネの雑種ができてしまっていることが明らかになっています。

4. 外来植物の除去作業について

（1）目的と内容（オオバコの除去作業）

外来植物の侵入を食い止めるため、登山口である市ノ瀬園地の駐車場周辺に生育するオオバコの除去作業が行われています。

この除去作業を実施することにより、市ノ瀬の駐車場を利用する登山客の靴に種子が付着しないようにする目的があります。

駆除方法については、石川県白山自然保護センターの平松専門研究員がイラストを交えた資料で分かりやすく説明されました。



駆除方法の説明風景

除去方法としては、「根切り」という除草道具を用いて、オオバコの地上部のすぐ下にある生長点という部位から上を除去します。そこを切除すれば翌年芽を出すことがなく、土を掘り返さないで、山岳地域の貴重な土壌の保全にも配慮しています。

(2) 当日のスケジュール

当日は、下記のスケジュールで除去作業が行われました。

日時：平成30年6月24日(日曜日)

場所：市ノ瀬駐車場周辺(白山国立公園内)

<タイムスケジュール>

12:30 受付開始

13:00 挨拶、説明、除草作業

14:45 休憩(オオバコ茶試飲)

15:30 作業終了 挨拶

(3) オオバコ茶の試飲

作業の休憩時に「オオバコ茶」の試飲が行われました。このお茶は、前もって市ノ瀬で除去されたオオバコを使って手作りで作られたお茶です。



オオバコ茶の試飲

(4) バイオトイレの設置

NPO法人環白山保護利用協会の正会員である「中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社 金沢支店」様のご協力により「バイオトイレ」が特設されました。このバイオトイレは、水や電気を使わず、おがくずとバク

テリアを使用して排泄物を分解し、快適かつ無臭であり環境に配慮されたトイレです。「白山百万貫岩」展望広場にも設置されており、災害時にも活用されています。

排泄物を分解した使用後のおがくずは、最終的に堆肥として有効利用することができます。



特設バイオトイレカー



5. おわりに

今回は、天候に恵まれ、作業途中から雨が降ってきた昨年度のオオバコの除去量46.6kgに対して102.0kgを除去し、参加された皆様は大変満足そうな笑顔でお帰りになりました。

最後に、この外来植物除去活動を通じて、白山の豊かな自然を守ることの大切さを学ぶことができ大変有意義な内容だったと思いました。また、多くの協会員がこの活動に参加することで、地域の皆様から信頼され、評価される協会を目指していきたいと感じました。協会員各位の更なる協力、参加を宜しくお願い致します。



参加者全員の集合写真

ふるさと富山美化大作戦に参加して

富山市が主催する「平成30年度ふるさと富山美化大作戦」が平成30年8月19日（日）に開催され、建設コンサルタント協会の13社20名が参加しました。

連日、富山市内の最高気温が35度前後と猛暑日続きで全国的に例を見ない暑い気候でしたが、当日の天候は秋風が少し入り清掃活動にはとても快適でした。集合場所の富山駅北に向かう道中、同じく「ふるさと富山美化大作戦」に参加している方々が、日曜日の朝7時前にもかかわらず、富山市内各所で清掃を行っており、街を綺麗に保つ意識の高さが伺えました。

本作戦の目的は、様々な企業・団体と市民が協働で清掃活動を行い、全国に誇れる美しい街、富山を目指して環境美化を推進することです。富山市中心部を幾つかのブロックに分け、各参加団体がそれぞれの担当地区を一斉に清掃します。私たちは、日頃より富山県内の社会インフラ整備に携わる団体（業界）として、また社会貢献活動の一環として参加し、富山駅北東部周辺の清掃を実施しました。



清掃活動を始める前、担当の方から挨拶があり、「例年ゴミがあまりないが、頑張りましょう」と聞きましたが、全国の都市部の主要駅付近でゴミが少ないということは考えられませんでした。しかし、実際に清掃を進めていく中で、ゴミがあまり見当たらず、他の参加団体の方々も可能な限りゴミを見つけて拾いました。

富山という街がどれだけ愛されているのか、実感しました。都市部の主要駅付近という、ゴミが所々にある場所だと考えられますが、富山駅周辺は全くの例外でした。

富山へ訪問する観光客のマナーが良いことも考えられますが、地元の方々の愛情が多いため、街が清潔に保たれているのだと感じることができた清掃活動となりました。

また、地元愛で満たされる街づくりができる建設コンサルタントは素晴らしい職業だと感じますが、働き方改革と称した担い手の確保、若手技術者の育成、労働環境の整備・改善に取り組む必要があることも認識しなければいけません。

協会についてより広く認知してもらえよう、参加者全員がJCCAのTシャツを着用して、清掃活動を実施しました。



最後に、協会のホームページやFacebookなどのSNSを通じ、建設コンサルタントが担う仕事内容や役割を紹介する動画「教えて！ケンコンさん」や県内大学のオープンキャンパスへの出展などの広報活動をこれまで以上に多く実施し、建設コンサルタント業をより多くの方に認知してもらえるように今後も活動していくことが重要だと感じます。



お知らせ

平成30年度 おやこで見学会

〈広報部会〉

平成30年8月25日（土）建設コンサルタント協会北陸支部主催の「おやこで見学会」を開催いたしました。近年、萬代橋誕生祭と同日で開催しており、船に乗って信濃川や萬代橋を眺めながら、公共施設の機能や建設コンサルタントの仕事などを知ってもらうことを目的に関係機関と連携しながら開催しました。

〈概要〉

日 時：平成30年8月25日（土） 9:15～12:00

場 所：信濃川、万代クロッシング、万代テラス

参加者：10組24名（子ども14名、保護者10名）

共 催：北陸地方整備局信濃川下流河川事務所
北陸地方整備局新潟国道事務所
新潟市

後 援：新潟県 新潟商工会議所 新潟日報社
ミズベリングやすらぎ堤研究会

〈スケジュール〉

9:15～ ばんだい丸発着所前の広場に集合

・挨拶 ・本日のスケジュールなどを説明

9:25 乗船開始

9:30 出発

・建設コンサルタントや信濃川などのお話し

10:15 到着・休憩

10:40 万代クロッシングにて説明

・新潟市のまちづくり ・液状化等の実験

11:20 万代テラスで地震の揺れを体験

12:00 アンケート記載・終了



寺本支部長による開会の挨拶

参加案内・申し込み状況

周知方法は、例年と同様に市報にいがたへの告知文掲載をメインとするものの、新潟市役所本庁・区役所・公民館、図書館でのチラシ配布、支部HPによる情報発信も併せて実施しました。今年は、早期にチラシを配布することができた点、市報にいがた掲載から申し込み締め切りまでの期間を例年に比べて長く確保することができた点がありました。

その結果、定員25名に対して過去最多となる50組128名の申し込みがありました。これは、参加者の中で「昨年申し込んだが抽選で外れたので、今年も申し込んでやっと参加することができました。」という方がいた事から、この取組みが周知されてきた、例年に比べてゆとりあるスケジュールで取り組めたことが奏功したものと思われます。

なお、厳正なる抽選の結果、10組25名が決定しました。



ばんだい丸に乗船、ワクワクです

見学会の様子

不安視された天候も問題なく、10組24名の参加者で開催いたしました。

乗船前に寺本支部長から挨拶、佐々木広報部会長から乗船にあたっての留意点を説明してもらい、記念撮影を行って屋形船「ばんだい丸」に乗船しました。

船内では、高橋広報委員長から「教えて！建コンさん」の動画を一部紹介するとともに、建設コンサルタントの仕事内容を簡単に説明しました。その後、国土交通省信濃川下流河川事務所の藤ノ木技官からやすらぎ堤の役割、

信濃川に生息する生物、新潟地震の痕跡を八千代橋で確認するなど、聞くだけでなく視覚的にもわかりやすく説明していただきました。また、船内では、すれ違う船に手を振ったり、ミズベリングの様子などに熱心にカメラを向けたりしていました。また、子どもから「橋にはコンクリートや鉄でできた2種類があるけれど、何で?」「橋を支えている柱の形が違うのは?」など、専門的な質問もあり、説明者が回答に困るほどの状況もありました。



信濃川の治水・利水・環境に関する説明



すれ違う船や川岸の人に向かって手を振る参加者

「ばんだい丸」による信濃川の周遊が終わった後、参加者は船から降り、歩いて萬代橋を渡り万代クロッシングまで移動しました。

万代クロッシングでは、新潟市まちづくり推進課の西野主査から新潟市が行っているミズベリングなど、まちづくりに関する取組みを説明してもらいました。



万代クロッシングまで歩いて移動



新潟市のまちづくりに関する説明

北陸支部からは、土粒子の間隙比に関してビー玉等を用いて実験し、さらに液状化の際、杭がある場合と無い場合における構造物（家屋等）への影響の違いについて模型等を用いて実験しました。この実験は、昨年と同様に子どもや保護者に興味を持って参加してもらうことができました。



積極的に参加する子どもや保護者

続いて、万代テラスまで歩いて移動し、国土交通省新潟国道事務所の國弘技官からパネルを用いながら萬代橋等の説明をしてもらいました。その後、子どもを対象として、4人1組を基本に起震車に乗ってもらい、地震が発生した際の揺れを体験してもらいました。子どもたちは、経験したことのない揺れに驚くとともに、楽しみながら実感した様子でした。



新潟国道事務所による説明



地震の揺れを体験

地震の揺れを体験後、参加者全員にアンケートを記載いただき、寺本支部長から閉会の挨拶をしてもらって解散となりました。盛況の中、事故なく、全ての予定を終了することができました。



閉会前に寺本支部長の前に並ぶ微笑ましい子どもたち



寺本支部長による閉会の挨拶



乗船前に撮影した集合写真

アンケート結果では(次頁を参照下さい)、印象に残った取組みとして「船に乗ったこと」、「液化化などの実験」、「地震の体験」という体験型が上位を占めました。そのような状況ではありましたが「信濃川のお話し」も多くの方から印象に残ったという回答で、体験しながらの話であるとともに、わかりやすい説明がこのような結果になったと思われます。

今回の取組みは、自由記載などの状況からもインフラ整備について多少の理解は得られたものと思われます。一方で、液化化の実験では一部の子どもが長く体験するなどの状況があり、他の子どもがなかなか体験できなかったことが反省点としてありました。

このような点も含め、来年度はより良い取組みに繋がっていきたいと考えます。

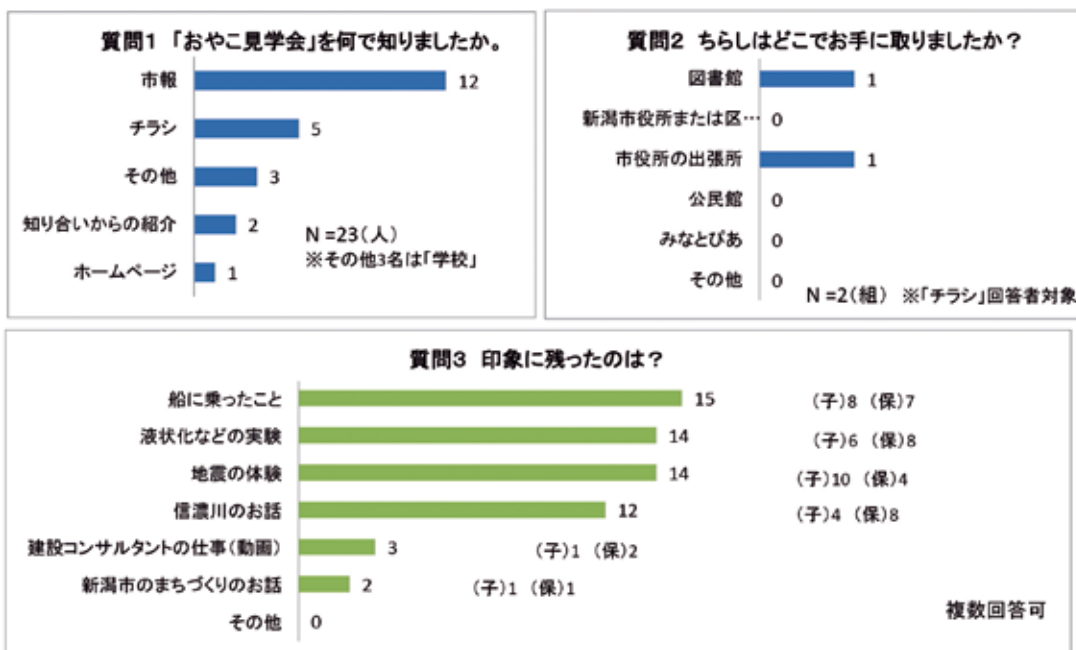
最後になりましたが、本見学会開催にあたり、北陸地方整備局信濃川下流河川事務所、同新潟国道事務所、新潟市、ばんだい丸など、多くの皆様に多大なるご協力を頂きました。本誌面をお借りして感謝申し上げます。

平成30年度 親子で見学会 アンケートまとめ

実施日時：平成30年8月25日(土)9:15～12:00

参加者：10組 24名(子ども14名、保護者10名) *当日1名キャンセル

回答者：23名(子ども13名、保護者10名)



質問4 お友達やお知り合いに伝えたいと思ったことはありましたか？ (自由記述)

【子ども】

- ・ 信濃川の話
- ・ 液状化の実験
- ・ 橋のうら
- ・ はし
- ・ 屋台船
- ・ はい
- ・ なし

【保護者】

- ・ 子どもが積極的に取り組んでいたのととても良かったです。
- ・ 来年、職場の人におすすめしたいと思います。橋の下が見れるのはおもしろかったです。
- ・ 橋についてのうんちくが少しできました(^o^)
- ・ 橋のこと
- ・ 液状化実験
- ・ 信濃川の話

質問5 その他、要望などありますか？(自由記述)

【子ども】

- ・ 液状化の実験が楽しかったです。
- ・ 橋のことを質問できて、答えてもらってうれしかったです。
- ・ 萬代橋は柱がかい。
- ・ 地震は怖いこと。舟に乗ったら楽しい。
- ・ 一日通してやりたい。
- ・ いいえ
- ・ なし

【保護者】

- ・ とても良い企画だと思います。ありがとうございました。
- ・ ぜひ、また参加したいです。子どももすごく楽しめました。ありがとうございました。今度は涼しい時期にお願いします。
- ・ 素敵な親子体験に参加することができました。時間や内容も、子ども達にはちょうど良かったと思います。また開催して欲しいと思います。
- ・ 楽しい企画でした。続けて下さい。
- ・ なかなか乗れない船や橋の下を見てよかったです。
- ・ 実験など全員が出来るようにしてほしい。特定の子どもだけがずっとやっていて出来ない子がいた。
- ・ 分水路も見せては？

お知らせ

平成30年度 北陸支部防災演習等の結果

〈災害対策部会・総括部会〉

毎年「防災の日」である9月1日には、午前は北陸支部（以下、支部と略す。）の防災演習、午後は建コン協本部（以下、本部と略す。）による災害時対応演習を実施しています。今年は、9月1日が土曜日であったため9月3日に支部および本部の演習を実施しました。

支部演習は初動時の情報伝達が適切に実施できるかを確認する、本部演習は本部と支部との連絡・伝達網が正常に機能できるか否かを検討するために取り組みました。

1. 北陸支部防災演習について

新潟、富山、石川の3地区でそれぞれ実施し、このうち新潟地区では北陸地方整備局や新潟県などの関係機関とも連携しながら行いました。

日時：平成30年9月3日（月） 8：40～11：50

場所：新潟地区 興和ビル10階会議室

富山地区 富山地区事務所

石川地区 石川地区事務所

新潟地区で連携した関係機関：

北陸地方整備局企画部防災課、
新潟県土木部監理課、北陸地質調査業協会、
（一社）全国測量設計業協会連合会北陸地区協議会

新潟地区参集者：

支部長、副支部長、運営委員長、災害対策部会、
総括部会、広報部会、事務局長 計13名



新潟地区参集の様子

（1）プログラムと訓練のポイント

新潟地区での取り組みは以下のとおりです（富山・石川地区は、下記プログラムのアンダーラインで示した箇所以外は新潟地区と同様に実施）。

- (6:00 新潟県南西沖でM7.7の地震発生)
 - 8:40 北陸地整から、電話にて技術総括指揮者に支援要請有り
技術総括指揮者・総括部会長で対応確認
 - 8:45 支部長に、北陸支部への参集の必要性について確認、要請内容を確認するため地整に向かわせることを報告
 - 8:50 地整へ3名出動・関係者への参集連絡
 - 9:30 北陸支部にて現地本部設置に関する協議
地整からの情報を持ち帰り、その内容を報告
 - 9:40 「災害対策現地本部」を設置
 - ① 関係機関へメールと電話による報告
 - ② 支部会員会社への災害対策現地本部設置のお知らせと会社の被害確認、調査派遣対応の確認をメール・FAXにて実施
 - 10:40 1時間以内の返信状況を支部長に報告
 - 11:40 2時間以内の返信状況を支部長に報告
- 【災害発生より90日経過を想定 平成30年12月1日】
- 11:50 災害対策現地本部の解散（支部訓練の終了）
・ 関係機関へメール・電話による報告

【訓練のポイント】

- ① 北陸地整企画部防災課に出向き、打合せを行う。
（災害協定に基づいた円滑な連携（情報伝達））
- ② 昨年度の問題改善が図れるか確認する。
災害担当責任者（正）、（副）の対応、メール等での必要事項の記載の有無等

(2) 災害時対応の事前調査の実施

例年、災害担当責任者（正）、（副）の役割の認識不足、会員会社への連絡間違いなどの問題があったことから、今年度はそれらの問題解決を図るために、試行的に会員数が最も多い新潟地区を対象とした事前調査を7月27日に実施しました。これにより、以下の点が確認されたため、事前に改善等を図りました。

- ①春に確認していた災害担当責任者（正）、（副）が変更されていたため事務局データを更新。
- ②災害担当責任者（正）、（副）に連絡がつかない場合に備え、両者の携帯電話メールアドレスを確認。
- ③動員可能な技術者数を把握するために、予めどの程度のパーティー数が出動できそうか確認。

(3) 演習の結果

当日は3地区でそれぞれ実施しました。



新潟地区支部演習の様子

1) 返信状況について

現地本部設置報告と支援可能人員等の確認に対し、会員会社からの返信は1時間以内での回答を求めて実施しました。今年度は、63社中、1時間以内返信は58社

(92%)、2時間以内返信は計63社（100%）と、事前周知の効果もあり高い返信率でした。

	対象会社	手段	返信時間別の状況		小計	合計
			1時間以内	1時間を超え2時間以内		
新潟地区	43	メール	39	4	43	43
		FAX	(2)	0	(2)	
富山地区	12	メール	12	0	12	12
		FAX	0	0	0	
石川地区	8	メール	7	1	8	8
		FAX	0	0	0	
合計 [返信率]	63	-	58 [92%]	5	-	63 [100%]

()内はメールに加え、FAXでも連絡があった会社数を示す。

- ※平成28年は、61社中、1時間以内返信は45社（74%）
2時間以内返信は計60社（98%）
- ※平成29年は、61社中、1時間以内返信は55社（90%）
2時間以内返信は計60社（98%）

2) 昨年度演習を踏まえた主な改善結果について

- ①所定様式に記載のうえ返信することを促して実施したが、メール文に記載して返信した会社が新潟地区で1社あった。
- ②所定様式による返信ではあるが「会社の被害状況確認」で記載無しの会社が新潟地区で2社あった。
- ③メール件名とファイル名の記載が不適切であった。

	新潟地区	富山地区	石川地区
メール件名が不適切	19社	2社	2社
ファイル名が不適切	12社	なし	1社

※不適切内容は全て社名の記載漏れである。

- ④災害担当責任者（正）、（副）は調整のうえ、どちらからの返信としたが、それぞれから届いた。

	新潟地区	富山地区	石川地区
両者から同じ内容が届いた	なし	1社	なし
両者から違う内容が届いた	1社	なし	なし

- ⑤所定時間内返信ができなかった理由を確認したところ、内容は認識していたが移動中や打合せ中のため、返信が遅れたとのことだった。
- ⑥新潟地区ではインターネット環境がない会議室でWi-Fiをレンタルしてメールの送受信を試みた。その結果、万が一の際の会議室として考えている場所でも問題なく対応できることが確認できた。
- ⑦2時間以内での返信が100%であったため、予め確認した携帯電話のメールアドレスを利用する状況にはならなかった。

2. 本部災害時対応演習について

日時：平成30年9月3日（月） 13:00～15:10



本部演習の様子

本部演習に大きな問題等はありませんでしたが、気が付いた点を以下に示します。

1) 災害用伝言ダイヤルについて

- ・録音は確認できなかった（防災の日でないため、そもそも利用は困難であったと思われる）

2) 会社の被害状況確認について

- ・今年度の「災害時対応演習計画」では、会員会社の被災状況の確認を本部演習と並行して実施することが新たに加わった。北陸支部では、支部演習の中で実施した。確認内容は、職員被害、社屋被害、その他の3項目で、所定様式に記載のうえ返信してもらうこととした。その結果、新潟地区で2社が未記載であったが、その他は特に問題はなかった。

3) メール連絡に伴う開封確認について

- ・本来、メールの開封確認は必要としないことであったが、本部からのメールではC-1様式の連絡まで開封確認を要求された。

4) 災害対策新潟支部設置について

- ・支部設置の報告を行った。これはメールの受信連絡を必要としたが、災害対策現地本部長からはあったが、災害対策本部長からはなかった。

5) 支援内容の報告について

- ・C-3様式をメールにて送ったが、本部から届いていないとの連絡があったため、再度、送付した。

3. まとめ

（1）北陸支部防災演習について

- ①昨年度生じた問題点を踏まえて掲げた訓練のポイントは概ね改善された。
- ②会員会社から連絡を受けたFAX番号自体が間違っているなど、細かなミスは改善されていなかった。
- ③所定の様式で返信してもらう際の注意事項を書面に記載したが、内容を確認してもらえなかった。

（2）本部災害時対応演習について

- ①大きな問題はなかったが、支部演習と同様に本部からの連絡を含めて、細かなミスは後を絶たない状況だった。

（3）関係機関との連携

今年度の支部訓練では、昨年度と同様に北陸地方整備局との災害協定に基づき、電話による支援要請を受け、そして要請内容について具体的に打合せをするなど、現実的な対応をイメージして取り組むことができました。



北陸地方整備局での打合せの様子

（4）支部長からの総評

以上の点を踏まえ、寺本支部長から以下の総評を得ました。

- ①気候変動が凶暴化してこれまでにない災害が発生している中、北陸地域にもいつ大規模な災害が発生するかも知れない。災害が発生した際は、被害状況把握等に当たる建設コンサルタントの役割をしっかりと果たしていく必要がある。
- ②そのため、災害協定による支援要請に対して適切に対応する。
- ③情報が錯そうする混乱状況の中、何をどうするのかなど、特に初動体制による被害把握や災害対策現地本部等の情報伝達等の作業手順を確立しておくことが大切。
- ④そのため、初動時に絞った演習を毎年実施しているものの、未だ、問題等が発生しており、このような繰り返しの演習には大きな意義がある。
- ⑤今回の支部や本部の演習を通じて、少しでも対応の充実を図ることが重要。



演習の総評を伝える寺本支部長

最後になりましたが、支部演習では、北陸地方整備局企画部防災課、新潟県土木部監理課、北陸地質調査業協会、（一社）全国測量設計業協会連合会北陸地区協議会の皆様にご協力を頂き無事終了することができましたこと、本誌面をお借りして感謝申し上げます。

気分もリセット 体もリセット

こんにちは、
日本エステティック協会
認定エステティシヤンの
宮崎夏海が
日々を健やかに過ごすための
ワンポイントをお教えます。
今回は…

〈温活・冷え対策〉

体の内側から温める

温かいものを食べましょう。野菜は生より加熱したものがGood。野菜スープなど最高です。特に根菜は栄養たっぷり、体を温めてくれます。

水分もしっかりと摂ってください。ここでいう水分とは、無糖のお茶やお水です。コーヒーや甘いお茶は当てはまらないので、摂りすぎに注意です。温度は常温がベストです。

体の外側から温める

体の保湿してますか？実は体が保湿されていると、体感温度が上がるんです💡乾燥も防げて一石二鳥🐰特に冬場はおすすめです♡

その際、バストップは注意が必要です。普通の保湿剤だとくすみ等の心配があるので、保湿したい場合は専用のものが良いでしょう。

全身するのは大変だという方は、気になる部分だけでもOKです。

疲れをとりながら

一人でも簡単にできるマッサージをご紹介します。湯船に浸かりながらのマッサージです。

やり方は、湯舟の中で足の指をつまむように揉むだけ。揉んでいる部分がピンク色になってきたら、いいカンジです。しもやけになりやすい方は予防にもなります。なってしまってからでも効果はありますので、ぜひ試してみてくださいね。

手の冷えが気になる方は、手もやってみてください。手足が軽く感じて心地良いですよ🌸



profile

宮崎 夏海

日本エステティック協会
認定エステティシヤン
リラクゼーションセラピスト



北陸支部活動報告

平成30年4月5日

北陸支部会計監査

場 所／北陸支部会議室

実施者／高堂支部監事、船谷支部監事

立会者／坂上運営委員長

平成30年4月5日

平成30年度第1回役員会

場 所／新潟市内

議 題／平成29年度監査報告

第36回北陸支部定時総会議案について 他

平成30年4月20日

新潟県建設業協会との意見交換会

場 所／新潟市内

平成30年4月25日

第1回北陸ICT戦略研究会

場 所／新潟国道事務所

対応者／木村道路委員

平成30年5月9日

北陸防災連絡会議幹事会

場 所／北陸地方整備局

対応者／坂上運営委員長

平成30年5月15日

大学等PR活動（PR冊子配布及び説明会）

場 所／金沢大学

対応者／今度トンネル委員長、麻田トンネル委員

平成30年5月15日

平成30年度ICT活用講習会（入門者クラス）（共催）

場 所／金沢市内

内 容／（1）ICT活用工事の概要 北陸地方整備局

（2）ICT活用工事の流れについて

日本建設機械施工協会

（3）ICTを活用した測量業務等の概要（UAV、

TLS等）（全国測量設計業協会連合会北陸

地区協議会）

平成30年5月16日

平成30年度ICT活用講習会（入門者クラス）（共催）

場 所／富山市内

内 容／（1）ICT活用工事の概要 北陸地方整備局

（2）ICT活用工事の流れについて

日本建設機械施工協会

（3）ICTを活用した測量業務等の概要（UAV、

TLS等）（全国測量設計業協会連合会北陸

地区協議会）

平成30年5月18日

講師派遣

派遣先／第1回けんせつセミナー2018

初任者技術研修（道路概論）

場 所／（一財）新潟県建設技術センター

平成30年5月18日

社会貢献活動 土木出張PR

場 所／津南町立津南中学校

対応者／今野広報委員

平成30年5月23日

平成30年度ICT活用講習会（入門者クラス）（共催）

場 所／北陸地方整備局

内 容／（1）ICT活用工事の概要 北陸地方整備局

（2）ICT活用工事の流れについて

日本建設機械施工協会

（3）ICTを活用した測量業務等の概要（UAV、

TLS等）（全国測量設計業協会連合会北陸

地区協議会）

平成30年5月23日

社会貢献活動 土木出張PR

場 所／長岡市立東中学校

対応者／高橋広報委員長

平成30年5月24日

協会表彰 功績賞受賞 若手技術者WG

場 所／協会本部

出席者／片岸若手技術者WGサプリーダー

平成30年5月25日

社会貢献活動 土木出張PR

場 所／柏崎市立東中学校

対応者／飯田広報委員

平成30年5月28日

担い手確保のためのH30合同セミナー実施に向けた打ち合わせ会

場 所／北陸地方整備局

対応者／松浦事務局長

平成30年5月30日

社会貢献活動 土木出張PR

場 所／柏崎市立高柳中学校

対応者／飯田広報委員

平成30年5月31日

社会貢献活動 土木出張PR

場 所／長岡市立刈谷田中学校

対応者／今野広報委員

平成30年6月1日
新潟県土木部と地域委員会との打ち合わせ
場 所／北陸支部会議室
出席者／新潟県土木部 宮野技監 他1名
北陸支部 中俣新潟地域委員長 他2名

平成30年6月4日
平成30年度北陸地方建設副産物対策連絡協議会
場 所／北陸地方整備局
出席者／佐藤建設環境委員長

平成30年6月4日
新潟県土木部主催「技術管理関係説明会」
場 所／新潟市内
出席者／渡邊技術部会長、真嶋品質向上委員長、森品質
向上委員

平成30年6月11日
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会石川県部会
場 所／金沢河川国道事務所
出席者／新家副支部長

平成30年6月12日
平成30年度インフラ再生技術者育成新潟地域協議会
場 所／新潟市内
出席者／代理 渡邊技術部会長

平成30年6月12日
平成30年度建設技術報告会実行委員会
場 所／新潟国道事務所
出席者／高橋広報委員長

平成30年6月12日
建設ICT研修講師派遣の打合せ
場 所／北陸地方整備局
出席者／泉富山地域委員他2名

平成30年6月12日
**先進的モビリティと都市政策セミナー in NIIGATA
（後援）**
場 所／新潟県庁

平成30年6月14日
大学等PR活動（PR冊子配布及び説明会）
場 所／金沢工業大学
対応者／今度トンネル委員長

平成30年6月14日
社会貢献活動 土木出張PR
場 所／小千谷市立東小千谷中学校
対応者／今野広報委員

平成30年6月14日
社会貢献活動 土木出張PR
場 所／十日町市立下条中学校
対応者／高橋広報委員長

平成30年6月15日
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会新潟県部会
場 所／北陸地方整備局
出席者／代理 高橋広報委員長

平成30年6月15日
北陸支部会員名簿発刊（平成30年6月）
担 当／広報部会 会誌編集委員会

平成30年6月15日
会誌「雪の音」Vol.133号発刊
担 当／広報部会 会誌編集委員会

平成30年6月19日
北陸防災連絡会議
場 所／新潟市内
対応者／寺本支部長

平成30年6月20日
大学等PR活動（説明会）
場 所／石川高専環境都市工学科
対応者／藤本道路委員、木下道路委員

平成30年6月22日
大学等PR活動（PR冊子配布）
場 所／新潟工科大学
対応者／真島品質向上委員長

平成30年6月24日
**北陸支部石川事務所社会貢献活動
白山外来植物除去作業 in 市ノ瀬一斉防除**
場 所／白山国立公園
内 容／外来植物除去作業
参加者／60名

平成30年6月25日
社会貢献活動 土木出張PR
場 所／上越市立八千浦中学校
対応者／飯田広報委員

平成30年6月28日
大学等PR活動（PR冊子配布）
場 所／新潟大学 地質学科、キャリアセンター
対応者／小見都市計画委員長

平成30年6月28日
（一社）河川情報センター講演会（後援）
場 所／新潟市内

平成30年 6月28日
道路橋示方書改定に伴う設計計算例講習会（本部主催）
場 所／新潟市内
参加者／46名

平成30年 6月29日
講師派遣
派遣先／新潟県土木部職員研修「道路施設の補修・補強技術（トンネル・洞門編）」

平成30年 7月2日～3日
CIMハンズオン講習会（本部主催）
場 所／新潟市内
内 容／サテライト講習・パソコンによる実習
参加者／20名

平成30年 7月5日
北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会富山県部会
場 所／富山河川国道事務所
出席者／山本副支部長

平成30年 7月6日
講師派遣
派遣先／新潟県土木部職員研修「道路施設の補修・補強技術（橋梁編）」

平成30年 7月8日
大学等PR活動（PR冊子配布）
場 所／富山大学 都市デザイン学部
都市・交通デザイン学科
対応者／渡辺橋梁委員長

平成30年 7月9日
大学等PR活動（PR冊子配布）
場 所／新潟大学農学部
対応者／佐藤建設環境委員長

平成30年 7月11日
大学等PR活動（PR冊子配布）
場 所／長岡科学技術大学 環境建設課
対応者／神田道路委員長

平成30年 7月11日
社会貢献活動 土木出張PR
場 所／長岡市立川口中学校
対応者／水野会誌編集委員

平成30年 7月11日
社会貢献活動 土木出張PR
場 所／魚沼市立湯之谷中学校
対応者／國兼広報委員

平成30年 7月12日
社会貢献活動 土木出張PR
場 所／新潟県新潟市立木崎中学校
対応者／高橋広報委員長

平成30年 7月12日
平成30年度北陸地方建設副産物対策連絡協議会新潟県
下越分科会
場 所／北陸地方整備局
出席者／若尾建設環境委員

平成30年 7月13日
「北陸の建設技術」第1回編集委員会
場 所／高田河川国道事務所
出席者／齋藤会誌編集委員

平成30年 7月17日
大学等PR活動（PR冊子配布）
場 所／富山県立大学 環境・社会基盤工学科
対応者／渡辺橋梁委員長

平成30年 7月19日
社会貢献活動 土木出張PR
場 所／魚沼市立広神中学校
対応者／飯田広報委員

平成30年 7月19日
平成30年度北陸地方建設副産物対策連絡協議会 上越
分科会
場 所／高田河川国道事務所
出席者／藤巻建設環境委員

平成30年 7月24日
防災演習打ち合わせ
場 所／北陸支部会議室

平成30年 7月25日
平成30年度マネジメントセミナー（本部主催）
場 所／新潟市内
講 師／本部担当委員会委員
内 容／建設コンサルタントとマネジメント
PPP/PFIの政策動向と事例紹介
CM方式のさらなる活用に向けて
建設コンサルタントの環境配慮マネジメント
マネジメントシステムを効率的運用に向けて
品質の確保・向上に向けて

平成30年 7月26日
ほくりく防災・減災考座2018（共催）
場 所／新潟市内
内 容／講演 気象災害・防災の背景
－温暖化？異常気象？－
講師 熊倉 俊郎 氏
（長岡技術科学大学
環境社会基盤工学専攻 准教）
講演 越後平野の地盤と防災
－もう一つの防災教育のすゝめ－
講師 鴨井 幸彦 氏
（株式会社村尾技建 技師長）

平成30年7月30日
大学等PR活動（PR冊子配布）

場 所／長岡高等専門学校
対応者／真嶋品質向上委員長

平成30年7月30日
北陸地方整備局との防災演習打ち合わせ

場 所／北陸地方整備局

平成30年7月31日
第18回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／金沢市内
内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」
講師 北陸地方整備局 担当官
演題「鉄道の再生整備が都市を救う
～富山大学 都市・交通デザイン学科から
の発信～」
講師 富山大学 都市デザイン学部
都市・交通デザイン学科
教授 金山 洋一 氏

平成30年8月3日～4日
富山大学オープンキャンパス

場 所／富山大学
内 容／パネル展示とパンフレットの配布

平成30年8月4日
富山県立大学 ダ・ヴィンチ祭

場 所／富山県立大学
内 容／親子でのペーパーブリッジ作成、パネル展示、
協会動画上映

平成30年8月7日
第29回全国産業教育フェア新潟大会「ブレ大会」

場 所／新潟市内
内 容／北陸建設界の担い手確保・育成推進協議会（新潟
県部会）の出席
対応者／佐々木広報部会長、高橋広報委員長

平成30年8月7日
第18回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／新潟市内
内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」
講師 北陸地方整備局 担当官
演題「鉄道の再生整備が都市を救う
～富山大学 都市・交通デザイン学科から
の発信～」
講師 富山大学 都市デザイン学部
都市・交通デザイン学科
教授 金山 洋一 氏

平成30年8月8日
建設コンサルタンツ協会北陸支部主催 業務・研究発
表会

場 所／富山市内
内 容／基調講演 コンクリート構造物の性能を評価する
技術
富山県立大学 工学部
環境・社会基盤工学科
伊藤 始 教授
業務・研究発表 8編
学生講演 2編

平成30年8月8日
第18回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／長野市内
内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」
講師 北陸地方整備局 担当官
演題「鉄道の再生整備が都市を救う
～富山大学 都市・交通デザイン学科から
の発信～」
講師 富山大学 都市デザイン学部
都市・交通デザイン学科
教授 金山 洋一 氏

平成30年8月9日
第18回社会資本整備セミナー（共催）

場 所／富山市内
内 容／演題「最近の国土交通行政の取り組みについて」
講師 北陸地方整備局 担当官
演題「鉄道の再生整備が都市を救う
～富山大学 都市・交通デザイン学科から
の発信～」
講師 富山大学 都市デザイン学部
都市・交通デザイン学科
教授 金山 洋一 氏

平成30年8月9日
コンクリート構造物の補修・補強に関するフォーラム
2018（後援）

場 所／新潟市内

平成30年8月19日
北陸支部富山事務所社会貢献活動
平成30年度ふるさと富山美化大作戦

場 所／富山市内
参加者／20名

平成30年8月23日
寒地土木研究所 新技術説明会（後援）

場 所／富山市内

平成30年8月24日
講師派遣
派遣先／新潟県土木部職員研修「橋梁III（行政編）」

平成30年 8 月25日

社会貢献活動「おやこで見学会」

(共催：信濃川下流河川事務所、新潟国道事務所、新潟市)

(後援：新潟県、新潟商工会議所、新潟日報社、ミズベリング
やすらぎ堤研究会)

場 所／新潟市内

内 容／信濃川からみた「やすらぎ堤」「萬代橋」など
(乗船体験)

万代クロッシング (体験型実験など)

参加者／親子10組24名

平成30年 8 月28日

講師派遣

派遣先／平成30年度建設ICT (I期) 研修

場 所／北陸技術事務所

平成30年 8 月29日～30日

講師派遣

派遣先／第6回けんせつセミナー2018 道路設計

場 所／(一財)新潟県建設技術センター

平成30年 8 月30日

北陸地方建設事業推進協議会工事施工対策部会

場 所／北陸地方整備局

出席者／神田道路委員長

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部

会 員 名 簿

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
朝日航洋(株)	北陸空情支社	950-0088 新潟市中央区万代2-3-6 新潟東京海上日動ビル2F	025-249-1150 025-249-1155
旭調査設計(株)		950-0908 新潟市中央区幸西1-1-11	025-245-8345 025-245-8349
アジア航測(株)	新潟営業所	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-28 パーク新潟東大通ビル	025-243-3246 025-247-7969
(株)アスコ大東	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通1-3-8 明治安田生命新潟駅前ビル5F	025-246-1320 025-247-3740
(株)アルゴス		944-0009 妙高市東陽町1-1	0255-72-3448 0255-72-9426
アルスコンサルタンツ(株)		920-0362 金沢市古府2-76	076-248-4004 076-248-4174
いであ(株)	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-1 カープ新潟ビル8F	025-241-0283 025-243-5650
(株)エイト日本技術開発	新潟事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-1-20 ステーションプラザ新潟ビル8F	025-256-8611 025-256-8612
エヌシーイー(株)		950-0954 新潟市中央区美咲町1-7-25	025-285-8540 025-285-3531
大原技術(株)		940-0856 長岡市美沢3-511	0258-35-4511 0258-36-3254
応用地質(株)	新潟支店	950-0864 新潟市東区紫竹7-27-35	025-274-5656 025-271-6765
(株)オリエンタルコンサルタンツ	北陸支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 ブレイス新潟4F	025-244-7881 025-244-7387
開発技建(株)		950-0914 新潟市中央区紫竹山7-13-16	025-245-7131 025-245-7132
(株)開発技術コンサルタント		951-8133 新潟市中央区川岸町3-33-3	025-233-0204 025-233-6465
川崎地質(株)	北陸支店	950-0914 新潟市中央区紫竹山5-7-5	025-241-6294 025-241-6226
北建コンサル(株)		933-0941 高岡市内免3-3-6	0766-23-3666 0766-23-3987
(株)キタック		950-0965 新潟市中央区新光町10-2	025-281-1111 025-281-0002
(株)協和		933-0838 高岡市北島1406	0766-22-2100 0766-22-7602
(株)協和コンサルタンツ	新潟営業所	940-0061 長岡市城内町3-8-7 蒼柴ビル801	025-889-8302 025-889-8304
(株)クリエイトセンター		951-8133 新潟市中央区川岸町2-8-1	025-232-7121 025-232-7130
(株)クレアリア	新潟営業所	950-0916 新潟市中央区米山4-2-16 キャッスル米山	025-248-2205 025-248-2206

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)計画情報研究所		920-0025 金沢市駅西本町2-10-6	076-223-5445 076-223-4144
(株)建成コンサルタント		933-0014 高岡市野村284-1	0766-25-6097 0766-25-5697
建設技研コンサルタンツ(株)		933-0007 高岡市角602-1	0766-21-6126 0766-21-6192
(株)建設環境研究所	新潟支店	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル7F	025-285-6437 025-280-9750
(株)建設技術研究所	北陸支社	950-0088 新潟市中央区万代4-4-27 NBF新潟テレコムビル	025-245-3883 025-241-9082
(株)建設技術センター	新潟営業所	950-0028 新潟市東区小金台9-9 202号室	025-250-8002 025-250-8004
(株)構造技研新潟		950-0932 新潟市中央区長潟1204-2	025-288-6800 025-288-6824
国際航業(株)	新潟支店	950-0087 新潟市中央区東大通2-3-26 ブレイス新潟	025-247-0318 025-241-4146
(株)国土開発センター		921-8033 金沢市寺町3-9-41	076-247-5080 076-247-5090
国土防災技術(株)	新潟支店	950-2042 新潟市西区坂井1035-1	025-260-2245 025-260-7522
五大開発(株)		921-8051 金沢市黒田1-35	076-240-6588 076-240-6575
サンコーコンサルタント(株)	北陸支店	950-2055 新潟市西区寺尾上4-4-15	025-260-3141 025-268-4950
(株)上智		939-1351 砺波市千代176-1	0763-33-2085 0763-33-2558
(株)新日本コンサルタント		930-0142 富山市吉作910-1	076-436-2111 076-436-3050
相互技術(株)		950-0994 新潟市中央区上所2-11-14	025-283-0150 025-283-0152
大日本コンサルタント(株)	北陸支社	930-0175 富山市願海寺633	076-436-7855 076-436-6030
(株)ダイヤコンサルタント	北陸支店	950-2001 新潟市西区浦山4-1-24	025-234-2110 025-234-2111
館下コンサルタンツ(株)		939-3553 富山市水橋的場234	076-478-0090 076-478-1190
中央開発(株)	北陸支店	950-0982 新潟市中央区堀之内南3-1-21 北陽ビル	025-283-0211 025-283-0212
(株)中部コンサルタント		933-0866 高岡市清水町3-5-9	0766-21-4536 0766-22-4370
(株)長大	北陸事務所	950-0965 新潟市中央区新光町6-1 興和ビル6F	025-288-0271 025-288-0273
(株)千代田コンサルタント	新潟営業所	950-0911 新潟市中央区笹口1-19-31	025-244-8445 025-249-4776

会 社 名	事業所名	住 所	電話番号 FAX番号
(株)東京建設コンサルタント	北陸支社	950-0087 新潟市中央区東大通1-2-23 北陸ビル	025-248-3870 025-248-3877
東京コンサルタンツ(株)	新潟支店	950-0912 新潟市中央区南笹口1-1-12 クラスターナインビル8F	025-246-1827 025-246-7463
(株)東北開発コンサルタント	新潟営業所	950-0154 新潟市江南区荻曾根1-5-15	025-382-6106 025-381-3144
(株)東洋設計		920-0016 金沢市諸江町中丁212-1	076-233-1124 076-233-1224
ナチュラルコンサルタント(株)		921-8066 金沢市矢木2-147	076-246-1170 076-246-4493
(株)ナルサワコンサルタント		950-0964 新潟市中央区綱川原1-21-11	025-282-2070 025-284-7993
(株)日本海コンサルタント		921-8042 金沢市泉本町2-126	076-243-8258 076-243-0887
日本工営(株)	新潟支店	950-0962 新潟市中央区出来島1-11-28	025-280-1701 025-283-0898
(株)日本港湾コンサルタント	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8	025-243-0431 025-241-1806
(株)ニュージェック	北陸支店	950-0911 新潟市中央区笹口2-10-1 WIN21 4F	025-243-4471 025-243-4472
パシフィックコンサルタンツ(株)	北陸支社	950-0917 新潟市中央区天神1-1 プラーカ3 6F	025-247-1341 025-246-1005
(株)パスコ	新潟支店	950-0916 新潟市中央区米山3-1-63	025-243-0051 025-241-8654
(株)プラネット・コンサルタント		920-0017 金沢市諸江町下丁372	076-255-0630 076-255-0672
北電技術コンサルタント(株)		930-0858 富山市牛島町13-15	076-432-9936 076-432-4280
北陸コンサルタント(株)		939-8213 富山市黒瀬192	076-493-7717 076-493-7720
三井共同建設コンサルタント(株)	北陸事務所	950-0087 新潟市中央区東大通2-5-8 東大通野村ビル	025-244-2503 025-244-2573
(株)村尾技建		950-0948 新潟市中央区女池南2-4-17	025-284-6100 025-283-0368
(株)村尾地研		939-8262 富山市塚原150	076-429-2511 076-429-2603
明治コンサルタント(株)	北陸支店	950-2002 新潟市西区青山1-1-22	025-265-1122 025-265-1126
八千代エンジニアリング(株)	北陸支店	950-0088 新潟市中央区万代1-1-1 朝日生命新潟ビル	025-243-5454 025-243-5883
(一社) 北陸地域づくり協会		950-0197 新潟市江南区亀田工業団地2-3-4	025-381-1020 025-383-1205
(一財) 新潟県建設技術センター		950-1101 新潟市西区山田2522-18	025-267-4804 025-267-4854

各部会・委員会委員名簿

北 陸 支 部 役 員			
支部理事	支部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副支部長	大 平 豊	エヌシーイー(株)
〃	副支部長	山 本 信 二	大日本コンサルタント(株)
〃	副支部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	運営委員長	坂 上 悟	開発技建(株)
〃	運営委員	黒 木 康 生	(株)日本海コンサルタント
〃	運営委員	瀬 川 光太郎	(株)建成コンサルタント
〃	運営委員	原 文 宏	(株)建設技術研究所
〃	運営委員	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
〃	運営委員	齊 木 勝	(株)キタック
〃	運営委員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
支部監事	支部監事	高 堂 景 寿	相互技術(株)
〃	支部監事	船 谷 喜代文	旭調査設計(株)

独 占 禁 止 法 の 遵 守 に 関 する 特 別 部 会			
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
	部会員	大 平 豊	エヌシーイー(株)
	部会員	山 本 信 二	大日本コンサルタント(株)
	部会員	新 家 久 司	(株)国土開発センター
	部会員	齋 藤 真 晴	開発技建(株)
	部会員	小 見 直 樹	エヌシーイー(株)
	部会員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
	部会員	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター

対 外 活 動 部 会			
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
	部会員	大 平 豊	エヌシーイー(株)
	部会員	山 本 信 二	大日本コンサルタント(株)
	部会員	新 家 久 司	(株)国土開発センター
	部会幹事	坂 上 悟	開発技建(株)
	部会員	中 俣 孝	(株)構造技研新潟
	部会員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
	部会員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント
	部会員	矢 田 弘	(株)東京建設コンサルタント
	部会員	渡 部 長 務	エヌシーイー(株)

新潟地域委員会	委員長	中 俣 孝	(株)構造技研新潟
〃	委 員	山 岸 守	開発技建(株)
〃	委 員	船 谷 喜代文	旭調査設計(株)
〃	委 員	齊 木 勝	(株)キタック
〃	委 員	大 塚 明	エヌシーイー(株)
〃	委 員	折 笠 昇	(株)開発技術コンサルタント
富山地域委員会	委員長	山 本 信 二	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	田 中 義 明	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	竹 腰 直 治	北建コンサル(株)
〃	委 員	吉 田 勉	(株)上智
〃	委 員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	榮 知 之	北陸コンサルタント(株)
石川地域委員会	委員長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	委 員	高 嶋 智 晴	(株)国土開発センター
〃	委 員	長 森 孝 司	(株)日本海コンサルタント

総 括 部 会			
	部会長	青 木 和 之	エヌシーイー(株)
	部会員	佐 藤 浩	(株)開発技術コンサルタント
	部会員	清 原 宏 二	開発技建(株)
	部会員	泉 英 樹	大日本コンサルタント(株)
	部会員	浦 正 光	(株)日本海コンサルタント
	部会員	佐 藤 雄 一	(株)構造技研新潟

技 術 部 会			
	部会長	渡 邊 雅 樹	開発技建(株)
道路委員会	委員長	神 田 和 久	開発技建(株)
〃	委 員	木 村 浩	エヌシーイー(株)
〃	委 員	首 藤 直 樹	(株)クリエイトセンター
〃	委 員	木 下 裕 康	(株)国土開発センター
〃	委 員	古 池 豊	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	藤 本 勇 一	(株)東洋設計
〃	委 員	池 渕 稔	東京コンサルタンツ(株)
橋梁委員会	委員長	渡 辺 正 三	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	近 藤 治	開発技建(株)
〃	委 員	渡 邊 敦	エヌシーイー(株)
〃	委 員	大 竹 滋	(株)キタック
〃	委 員	南 雲 浩	(株)構造技研新潟
〃	委 員	浦 修 造	(株)国土開発センター
〃	委 員	鷹 西 輝	(株)東洋設計
〃	委 員	寺 田 直 樹	(株)開発技術コンサルタント

河川及び砂防委員会	委員長	須 田 玲	エヌシーイー(株)
〃	委 員	阿左美 敏 和	(株)建設技術研究所
〃	委 員	西 川 幸 成	(株)国土開発センター
〃	委 員	浜 谷 智	五大開発(株)
〃	委 員	太 原 晶	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	坂 上 松 則	開発技建(株)
〃	委 員	金 子 幸 生	相互技術(株)
〃	委 員	伊 藤 正 喜	(株)開発技術コンサルタント
トンネル委員会	委員長	今 度 充 之	東京コンサルタンツ(株)
〃	委 員	須 貝 浩	エヌシーイー(株)
〃	委 員	麻 田 正 弘	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	江 川 千 洋	(株)キタック
〃	委 員	雪 田 真 吾	サンコーコンサルタント(株)
〃	委 員	辻 本 勝 彦	(株)国土開発センター
都市計画委員会	委員長	小 見 直 樹	エヌシーイー(株)
〃	委 員	佐 藤 吉 一	開発技建(株)
〃	委 員	莊 司 洋 文	(株)キタック
〃	委 員	新田川 貴 之	(株)国土開発センター
〃	委 員	酒 井 信 次	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	埴 正 浩	(株)日本海コンサルタント
建設環境委員会	委員長	佐 藤 朗	開発技建(株)
〃	委 員	稲 葉 弘 之	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	若 尾 明 弘	エヌシーイー(株)
〃	委 員	高 橋 靖	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	西 暢 人	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	平 野 博 範	(株)国土開発センター
〃	委 員	藤 卷 英 俊	大原技術(株)
品質向上委員会	委員長	真 嶋 利 寿	エヌシーイー(株)
〃	委 員	伊 藤 信 哉	開発技建(株)
〃	委 員	森 将 恒	(株)キタック
〃	委 員	西 村 治	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	若 林 修	東京コンサルタンツ(株)
〃	委 員	野 村 尚 樹	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	山 森 茂 明	(株)クリエイティブセンター
〃	委 員	高 橋 辰 夫	(株)開発技術コンサルタント
情報委員会	委員長	樋 浦 慎	開発技建(株)
〃	委 員	岩 淵 和 有	エヌシーイー(株)
〃	委 員	大 塚 秀 行	(株)キタック
〃	委 員	加 藤 毅	(株)クリエイティブセンター
〃	委 員	渡 辺 浩 二	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	安 藤 正 幸	(株)日本海コンサルタント

若手技術者ワーキンググループ	リーダー	竹 内 聡	開発技建(株)
〃	サブリーダー	片 岸 将 広	(株)日本海コンサルタント
〃	委 員	七郎丸 一 孝	(株)国土開発センター
〃	委 員	伊 藤 裕 章	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	松 尾 内 助	(株)キタック
〃	委 員	山 田 知 広	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	福 崎 正 和	(株)構造技研新潟
〃	委 員	風 間 恵	相互技術(株)
〃	委 員	飯 野 美 樹	エヌシーイー(株)

広 報 部 会			
	部会長	佐々木 大 介	(株)ナルサワコンサルタント
広報委員会	委員長	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	委 員	浜 辺 良 彦	相互技術(株)
〃	委 員	今 野 健	エヌシーイー(株)
〃	委 員	高 橋 宏 明	開発技建(株)
〃	委 員	飯 田 互	(株)開発技術コンサルタント
〃	委 員	坂 原 徹	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	大 蔵 欣 司	(株)建成コンサルタント
〃	委 員	島 由 治	アルスコンサルタンツ(株)
〃	委 員	新 家 哲 平	(株)国土開発センター
〃	委 員	榊 原 稔	(株)建設技術研究所
〃	委 員	國 兼 功	八千代エンジニアリング(株)
会誌編集委員会	委員長	須 藤 勝 彦	(株)国土開発センター
〃	委 員	熊 倉 孝 次	(株)クリエイトセンター
〃	委 員	齋 藤 浩 幸	(株)キタック
〃	委 員	長 田 宏 之	大日本コンサルタント(株)
〃	委 員	水 野 慎 介	(株)日本海コンサルタント

災 害 対 策 部 会			
	部会長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
新潟現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	大 平 豊	エヌシーイー(株)
〃	技術総括指揮者	高 橋 邦 夫	開発技建(株)
〃	副責任者	木 村 幸 雄	開発技建(株)
富山現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	山 本 信 二	大日本コンサルタント(株)
〃	技術総括指揮者	初 鹿 明	大日本コンサルタント(株)
〃	副責任者	林 達 夫	大日本コンサルタント(株)
石川現地対策本部	本部長	寺 本 邦 一	開発技建(株)
〃	副本部長	新 家 久 司	(株)国土開発センター
〃	技術総括指揮者	笹 谷 輝 彦	(株)国土開発センター
〃	副責任者	西 川 幸 成	(株)国土開発センター

顧 問			
		藤 卷 俊 二	開発技建(株)

編集後記

今年の夏はとても暑かった。ビールもハイボールもよく飲んだ。「ウイスキー〜がお好きでしょ〜♪」のCMソングを口ずさみ、薄明かりの繁華街へ…唐揚げもおいしくいただいた。このメロディーが生まれたのが1990年だそうで、30年ほど前にサントリーのCMソングとして石川さゆりさんが発表した楽曲だ。平成の初め頃の楽曲なのだが、CMの影響もあるのか、とても気に入っている。

平成も30年、1989年1月8日に始まり現在に至っている。巷では「平成最後の…」とやたらと耳に入ってくる。改元が予定されているのでこうなるのだが、なぜか特別なことをやらなきゃいけないのかと思えてくる。最後という言葉に意味を見出し、自分なりの過ごし方を模索するのも一興であろう。

私が今の仕事にお世話になったのが昭和の終わりで、すぐに平成が始まり、もうすぐ平成が終わる。水害やら地震やら、天災で始まり天災で終わる時代だったように感じている。

「天災は忘れた頃にやって来る」という言葉がある。「自然災害は、以前の被害を忘れたところに再び起こるもので、何事も日ごろから油断することなく備えておかなければいけない」との戒めの言葉だそう。最近では忘れる暇もなく、地震や台風やゲリラ豪雨やら、以前とはだいぶ違う感じでやって来る。時代とともに何もかもが変わっていくのだろうか。

昔の楽曲から一節

「しとしとぴっちゃん しとぴっちゃん しとぴっちゃん〜♪」 雨はこんな音がいい。

熊倉孝次

発 行 / 一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371

会誌編集委員会

委員長 / 須藤勝彦

委 員 / 齋藤浩幸 熊倉孝次 長田宏之 水野慎介



発 行

一般社団法人 建設コンサルタンツ協会 北陸支部
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1 興和ビル7階
TEL 025-282-3370 FAX 025-282-3371
<http://hr-jcca.jp/>